

「天地人」を読みながら

春寒の候、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

「運は天にあり、鎧は胸にあり、手柄は足にある。何時も敵を掌中に入れて合戦すべし、傷つくことなし。死なんと戦えば生き、生きんと戦えば必ず死するものなり。家を出るより帰らじと思えば、また帰る。帰ると思えば、これまた帰らぬものなり。不定のみと思うにたがわずといえど、武士たる道は不定と思うべからず。必ず一定と思うべし。」



代表取締役社長 吉田治伸

今、話題のNHK大河ドラマ「天地人」の原作の一節です。上杉謙信が城のやぐらの壁に書いた書です。小説ではこのくだりの後、「生きるも死ぬも時の運、勝負は定めなきものと人は言うが、じつはそうではない。知略をつくし、おのが足を使って働いてはじめて、手柄をあげられる。常に決死の覚悟をいだいて家を出なければならぬと、私はこの壁書を読むたびに思いをあらたにする。」と主人公の直江兼続は言っています。

年が明け、大変な不況がはじまったと実感する毎日です。こんな時、皆様にお伝えしたい事は、「天は努力する者を見放さない。」であり、「練習はうそつかない。」(日頃が大事)であります。

「普通」の仕事は、価格競争や喪失につながり、「感動」を与えている仕事のみが生き残ります。「感動」は「笑顔」や「挨拶」という「日頃」を大前提にした、「仕事」や「お客様」や「仲間」に対する「愛情」の集大成です。

みんなで ほめられながら、明るく乗り切りたいね。